

資料2

令和2年10月30日

草津市上下水道事業運営委員会 説明資料(下水道事業)

令和2年度第2回



草津市上下水道部

次第

議事

1. 経営の現状（決算報告）
2. 汚水量予測
3. 事業計画

策定スケジュール



回	開催日、開催時期	会議内容
第1回 (R2年度第1回)	8月21日	次期経営計画策定趣旨、 スケジュール、現計画説明、評価
第2回 (R2年度第2回)	10月30日	経営の現状（決算報告） 汚水量予測 事業計画
第3回 (R2年度第3回)	令和3年1月	目標設定、経営将来予測、 財政シミュレーション、 使用料の方向性
第4回 (R2年度第4回)	3月	経営計画（案）、使用料の方向性
第5回 (R3年度第1回)	4月	まとめ、答申



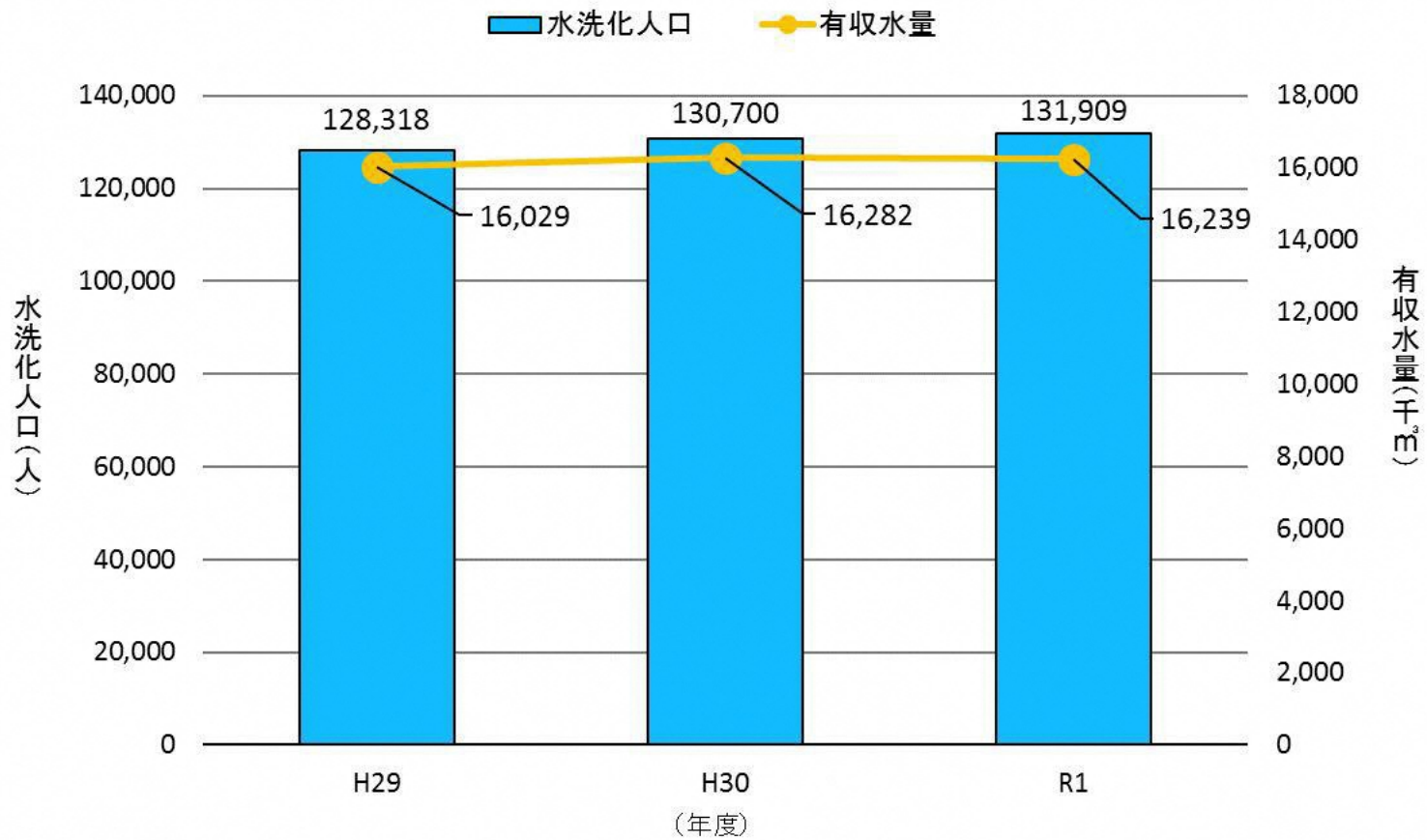
1. 経営の現状（決算報告）

業務量（污水） ※（污水）には、污水事業と農業集落排水事業を含みます

- ◆水洗化人口、処理件数は微増
- ◆有収水量は微減

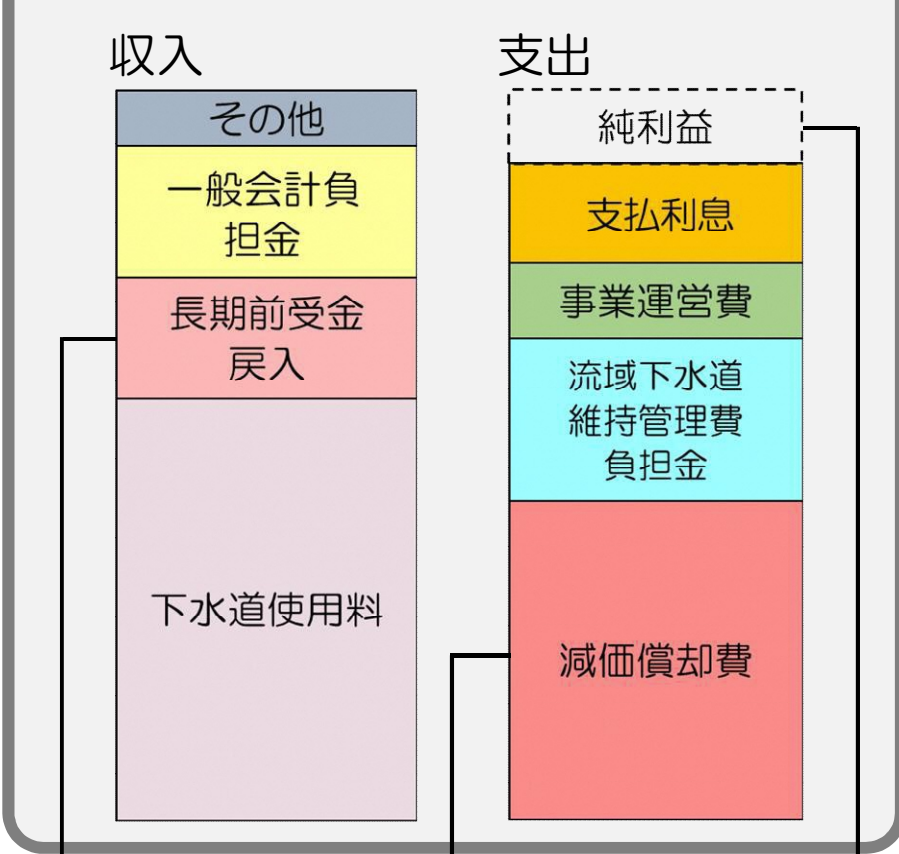
区分	単位	令和元年度	平成30年度	比較	
				増減	増減率 (%)
行政区域内人口	人	135,166	134,224	942	0.7
年度末水洗化人口	人	131,909	130,700	1,209	0.9
年度末処理件数	件	33,146	32,762	384	1.2
年間有収水量	m ³	16,239,128	16,282,498	▲43,370	▲0.3

水洗化人口および有収水量の推移（汚水）

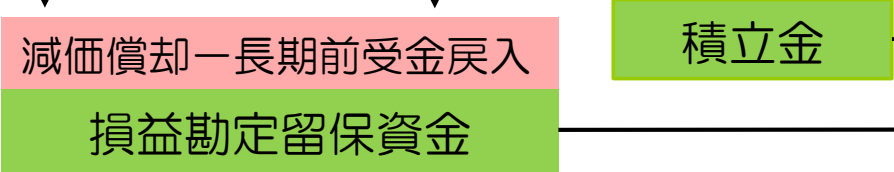
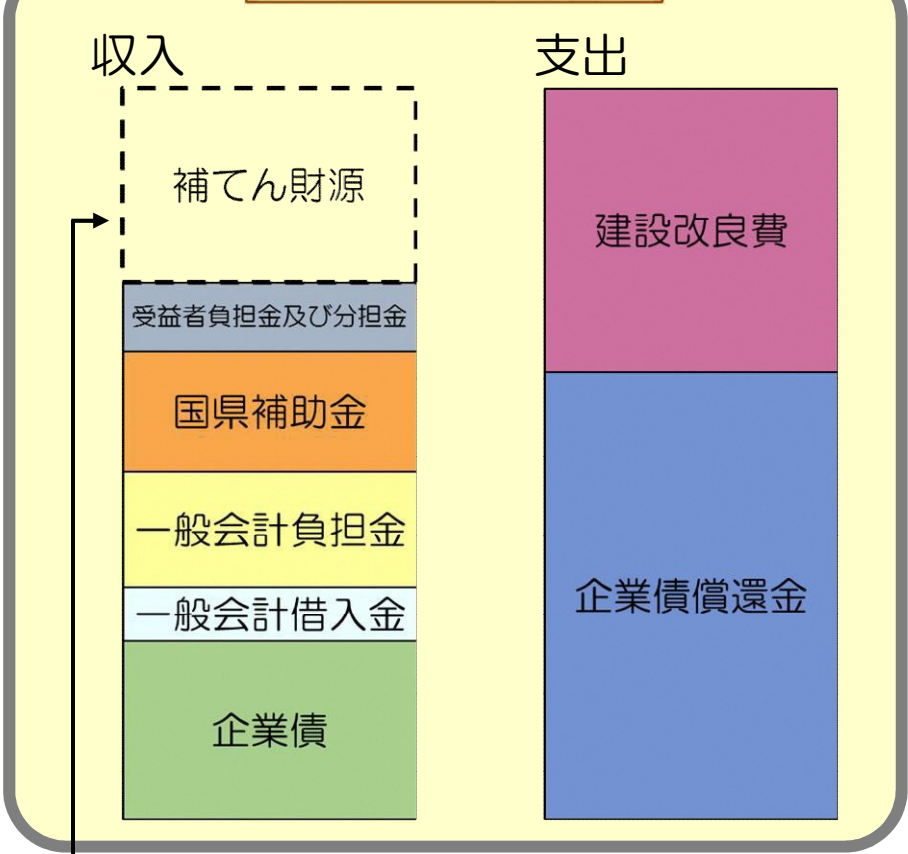


公営企業会計の経理（汚水+雨水）

◆収益的収支（損益計算書）

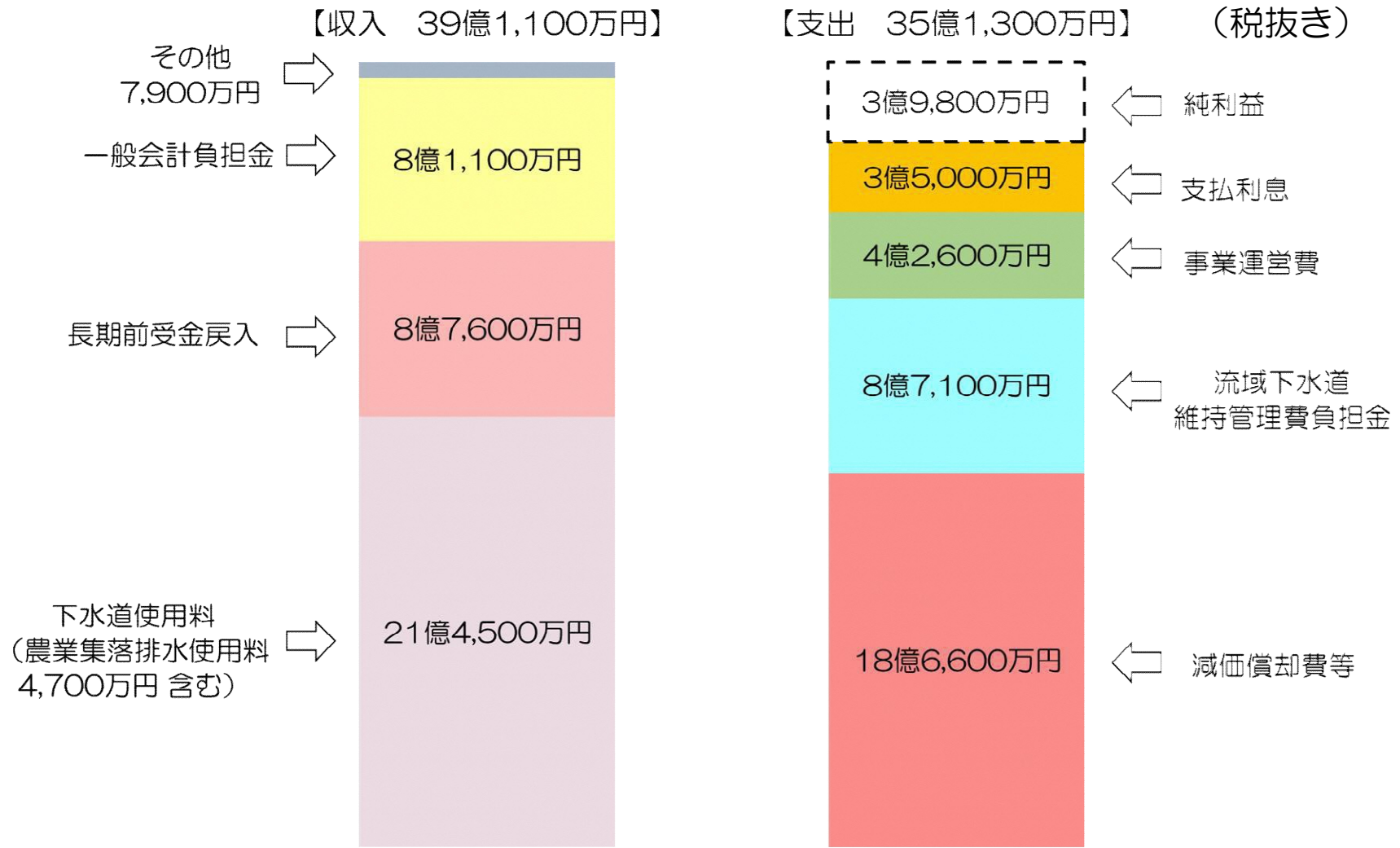


◆資本的収支



令和元年度下水道事業会計決算（汚水+雨水）

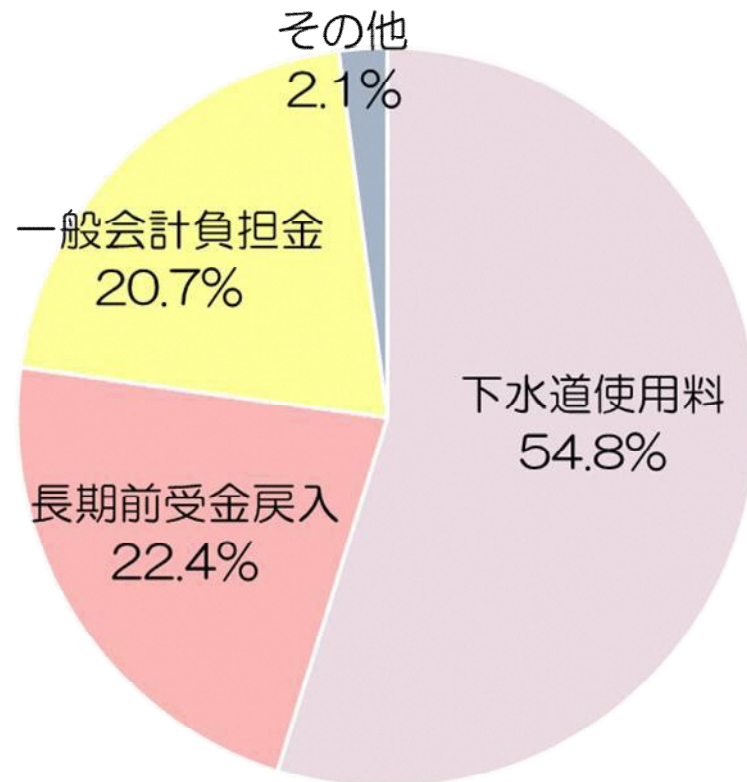
・収益的収支（損益計算書）【下水を処理するための収入と支出】



収益的収支（汚水+雨水）

- 収入では、下水道使用料が54.8%の割合である
- 支出では、減価償却費等が53.1%、流域下水道維持管理費負担金が24.8%の割合である

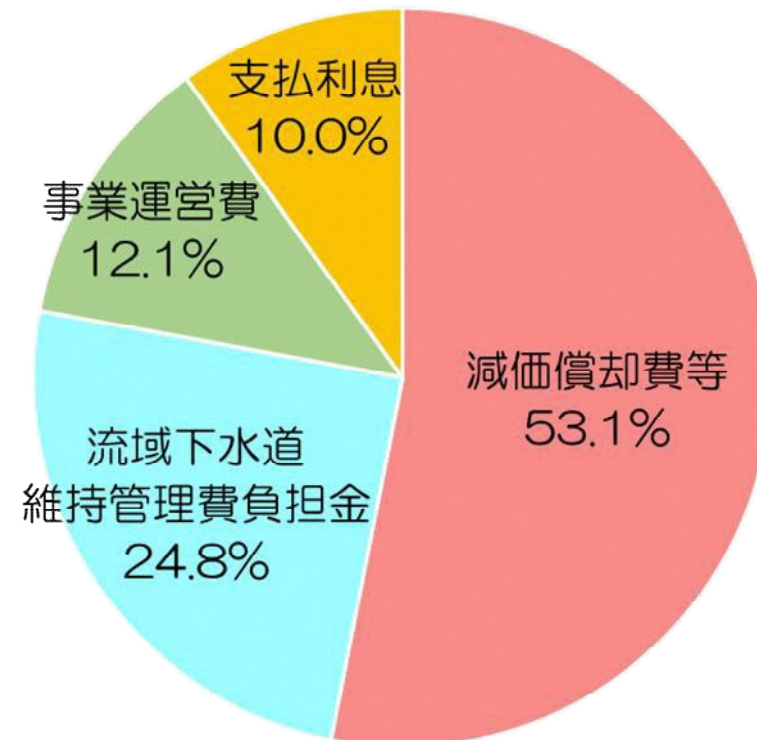
収入（収益）



収入合計 39億1,100万円

支出（費用）

（税抜き）

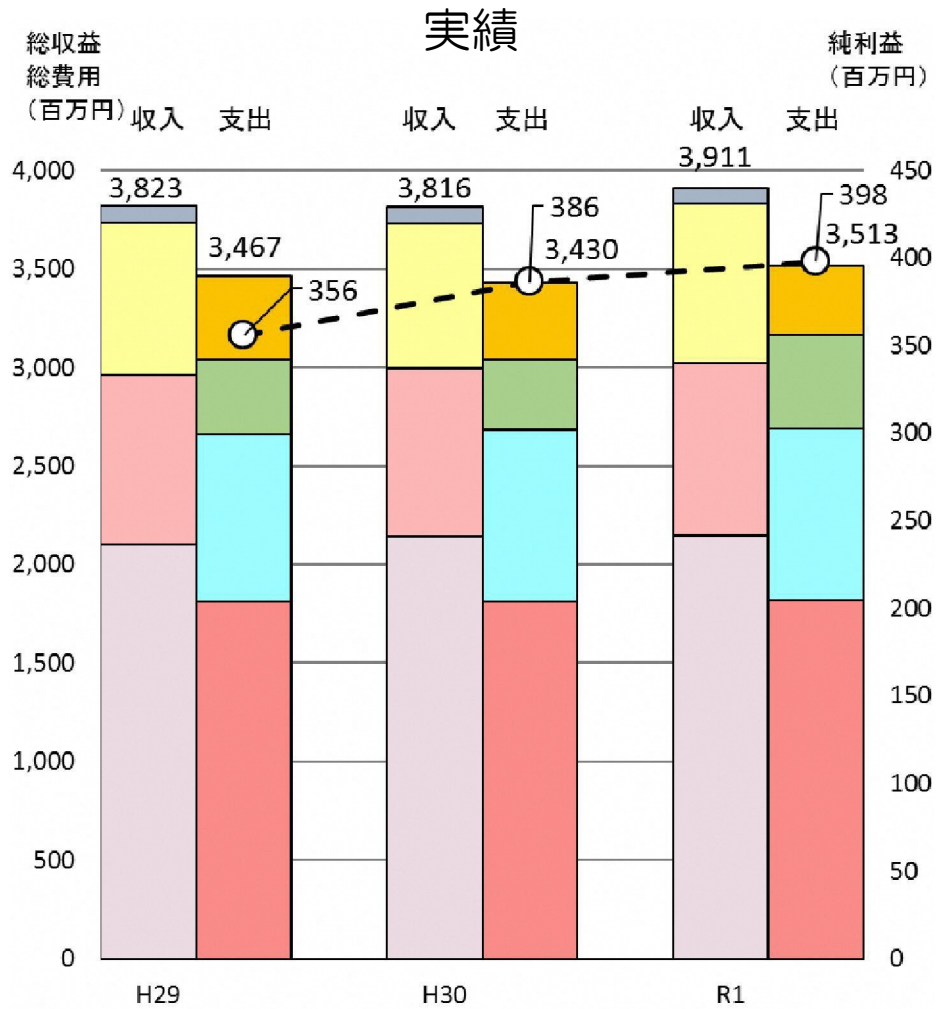
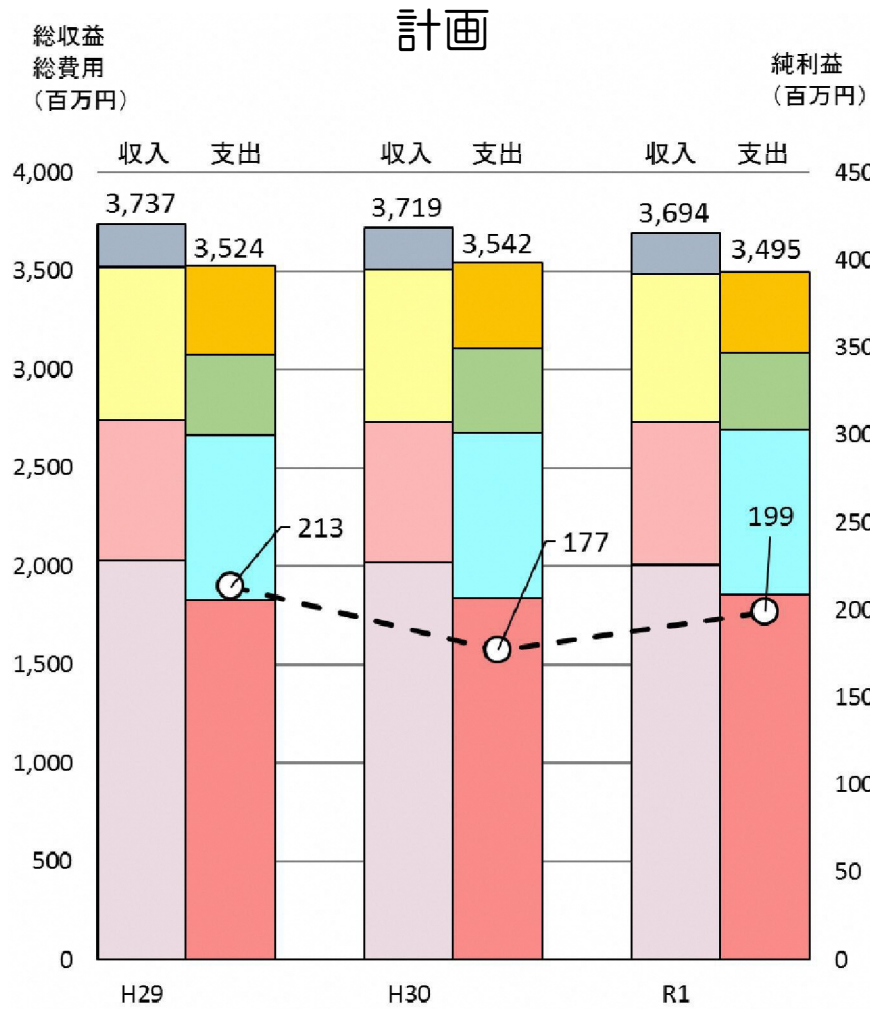


支出合計 35億1,300万円

収益的収支の推移（汚水+雨水）

第8期経営計画との比較

- 収入：下水道使用料
 - 収入：長期前受金戻入
 - 収入：一般会計負担金
 - 収入：その他
 - 支出：減価償却費等
 - 支出：流域下水道負担金
 - 支出：事業運営費
 - 支出：支払利息
- 純利益

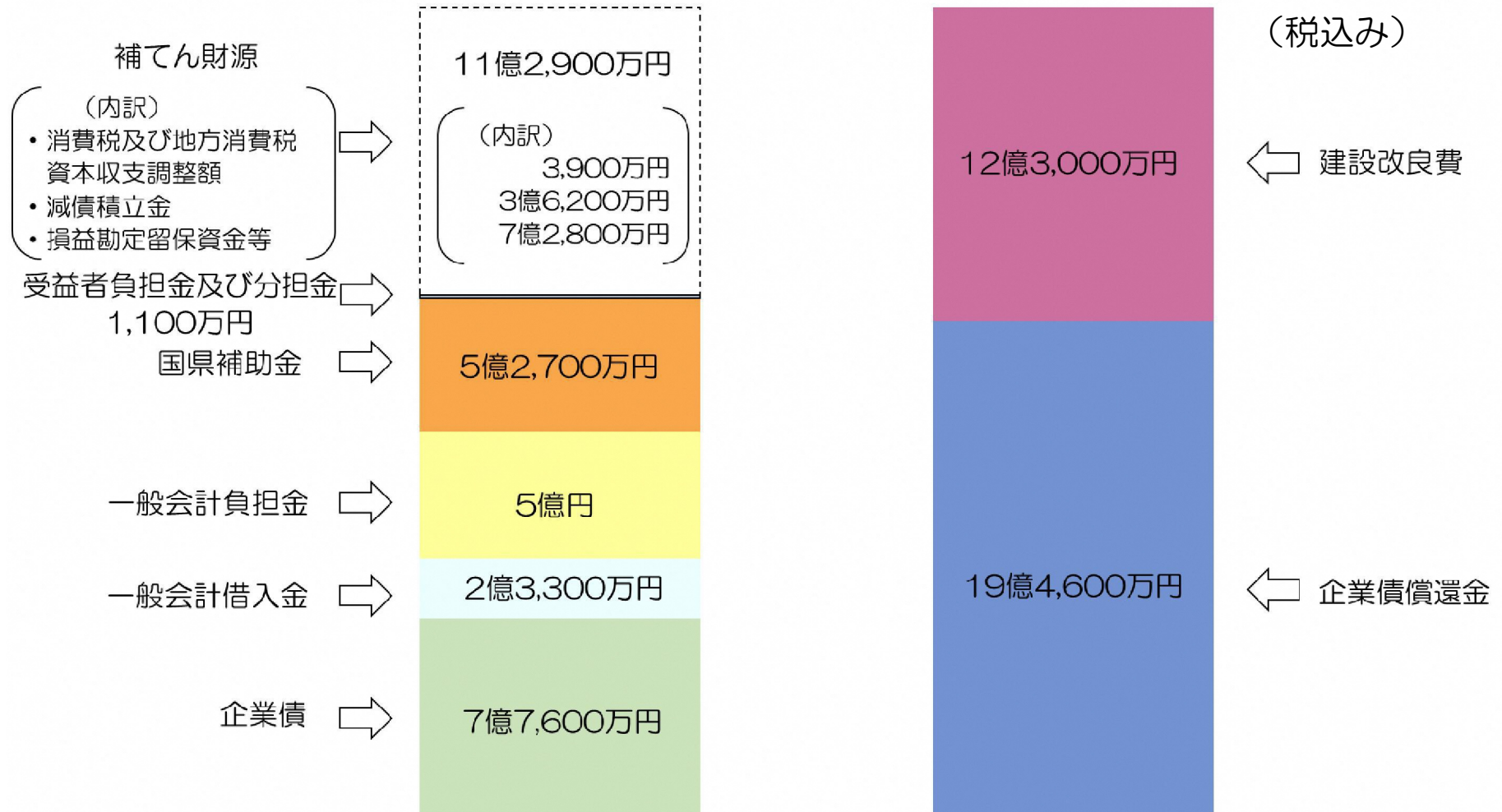


令和元年度下水道事業会計決算（汚水+雨水）

・ 資本的収支 【施設を整備するための収入と支出】

【収入 20億4,700万円】

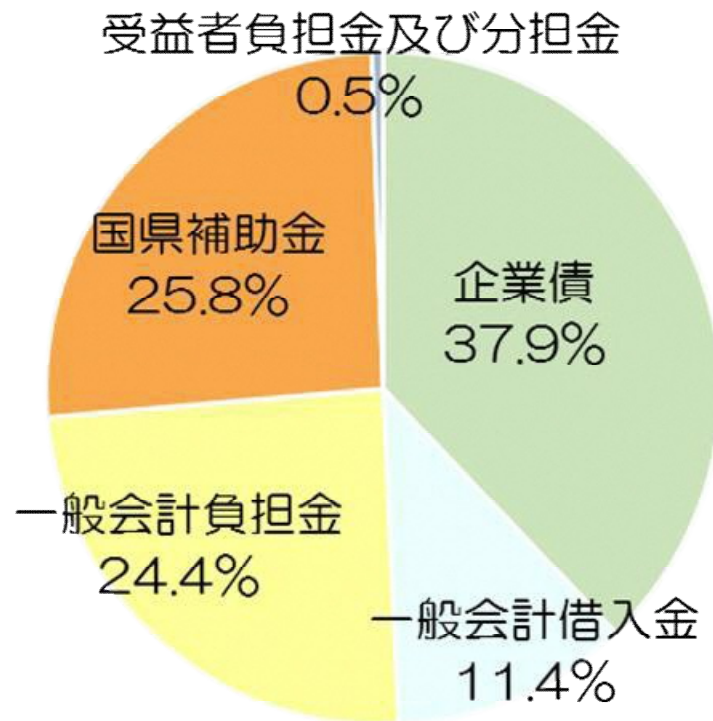
【支出 31億7,600万円】



資本的収支（污水+雨水）

- 収入では、将来返済が必要である企業債と一般会計借入金の合計が49.3%を占めている
- 支出では、企業債償還金が61.3%、建設改良費が38.7%を占めている

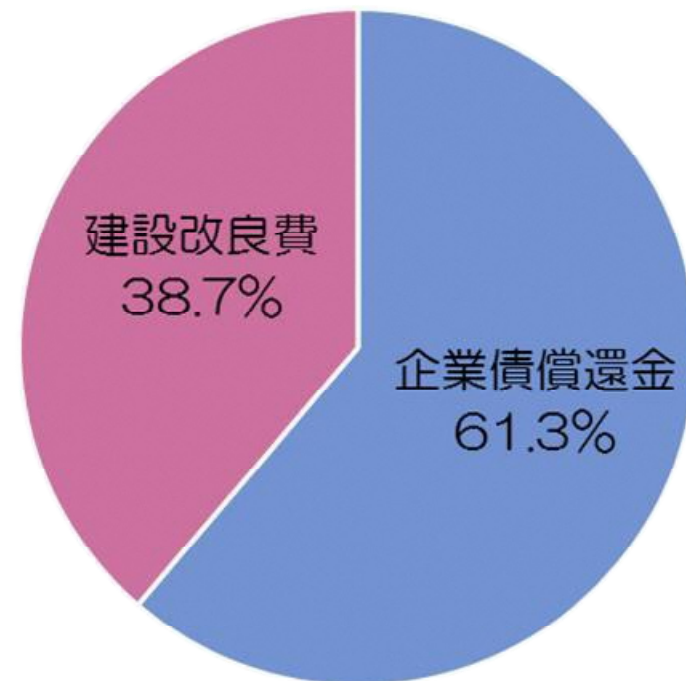
収入



収入合計 20億4,700万円

支出

(税込み)

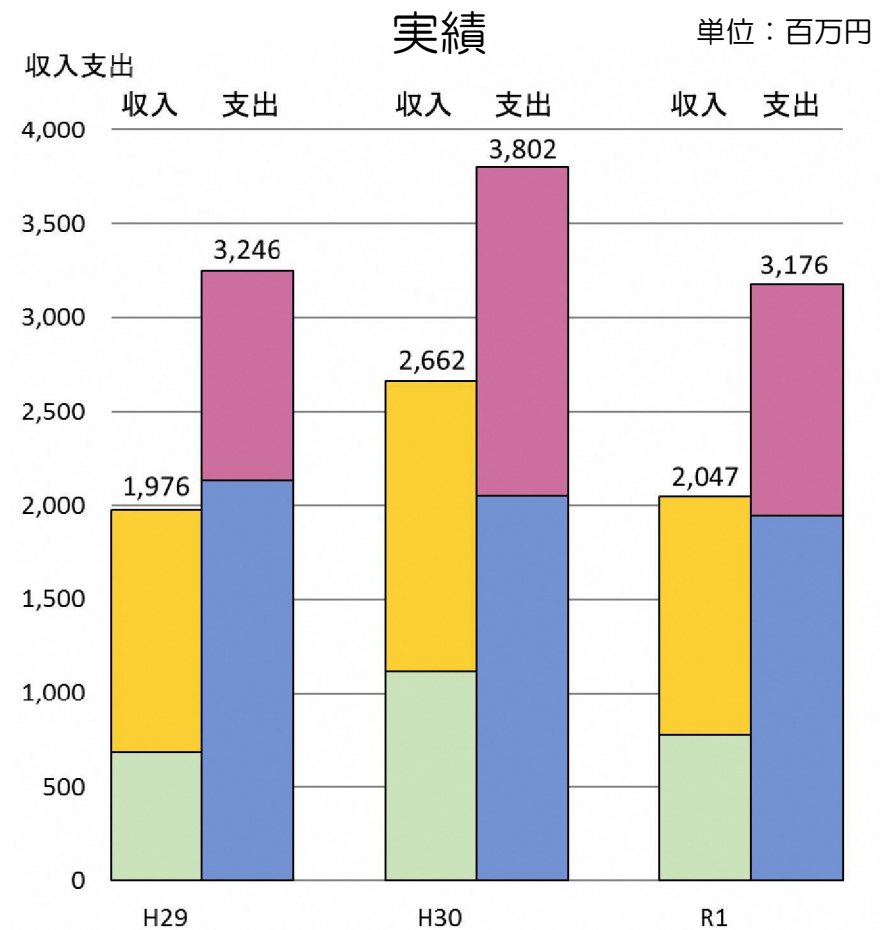
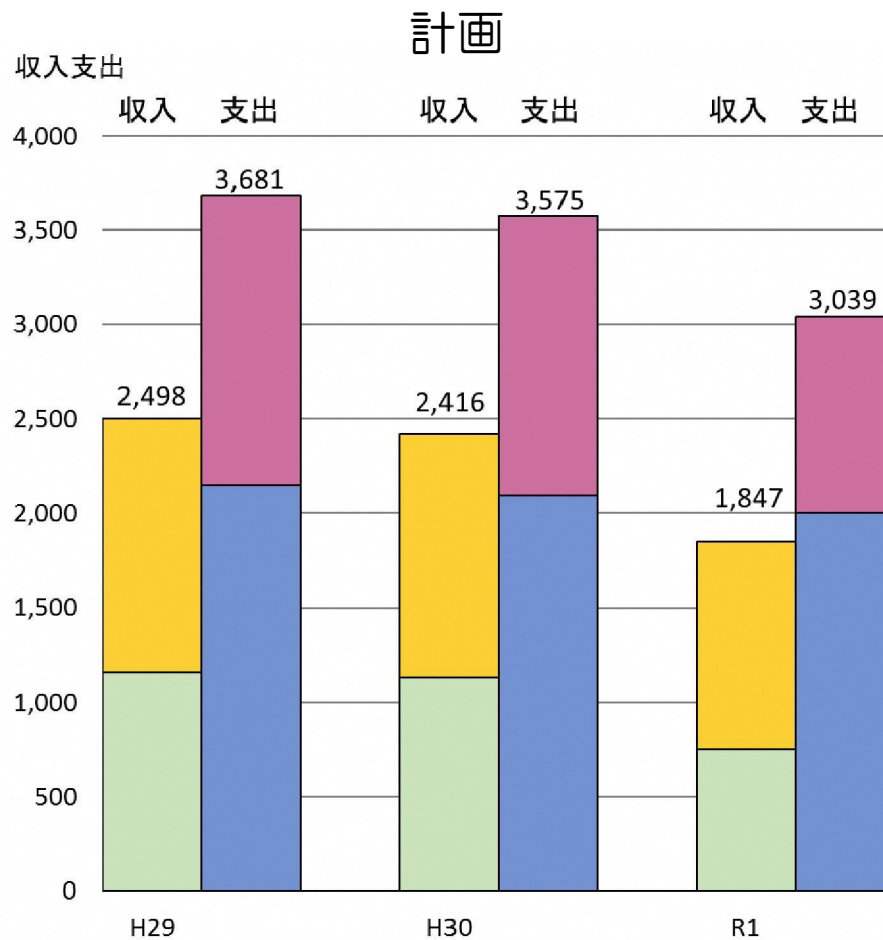


支出合計 31億7,600万円

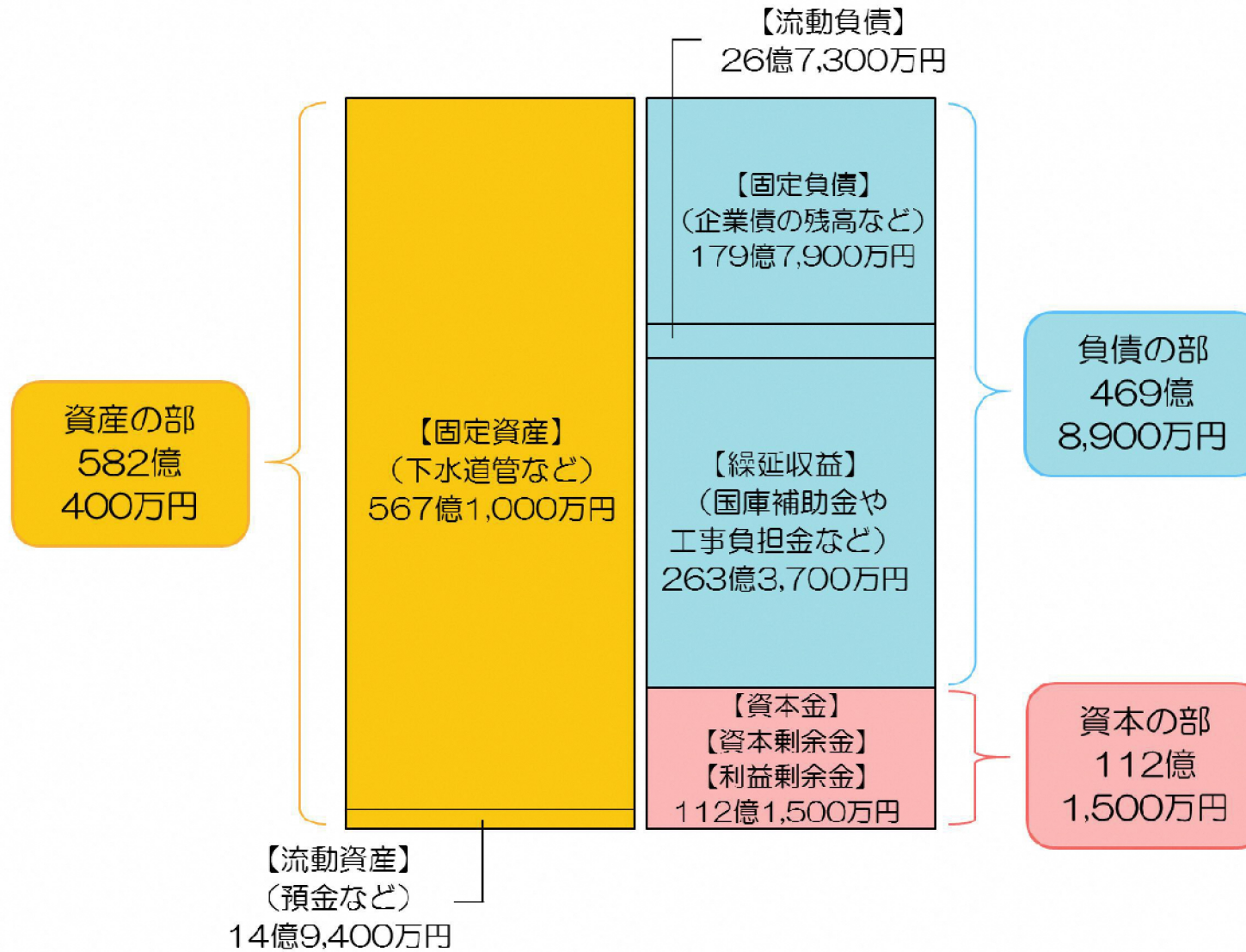
資本的収支の推移（污水+雨水）

第8期経営計画との比較

■ 収入: 企業債 ■ 支出: 建設改良費
■ 収入: その他収入 ■ 支出: 企業債償還金



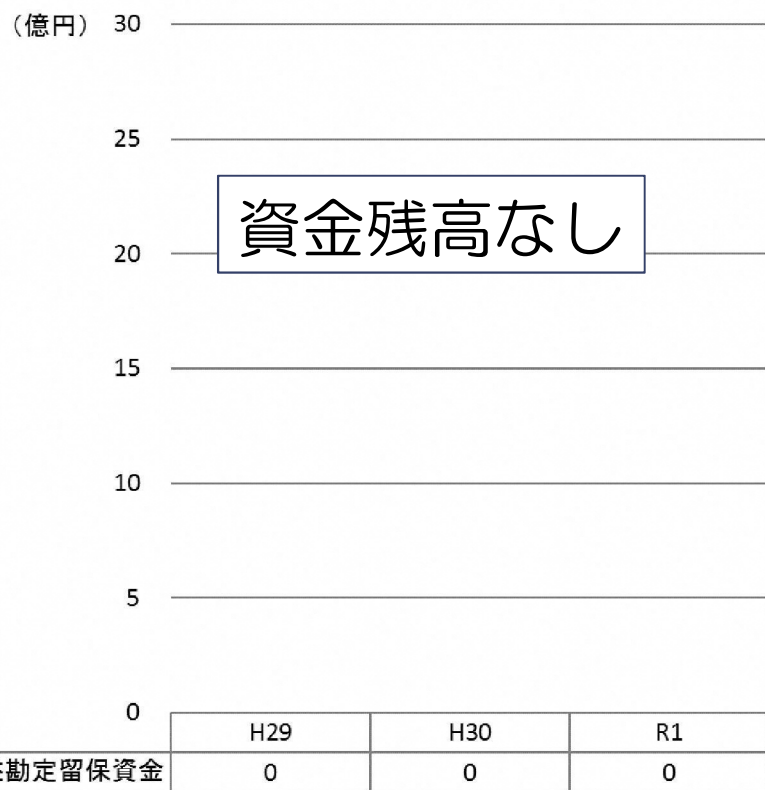
令和元年度末貸借対照表（污水+雨水）



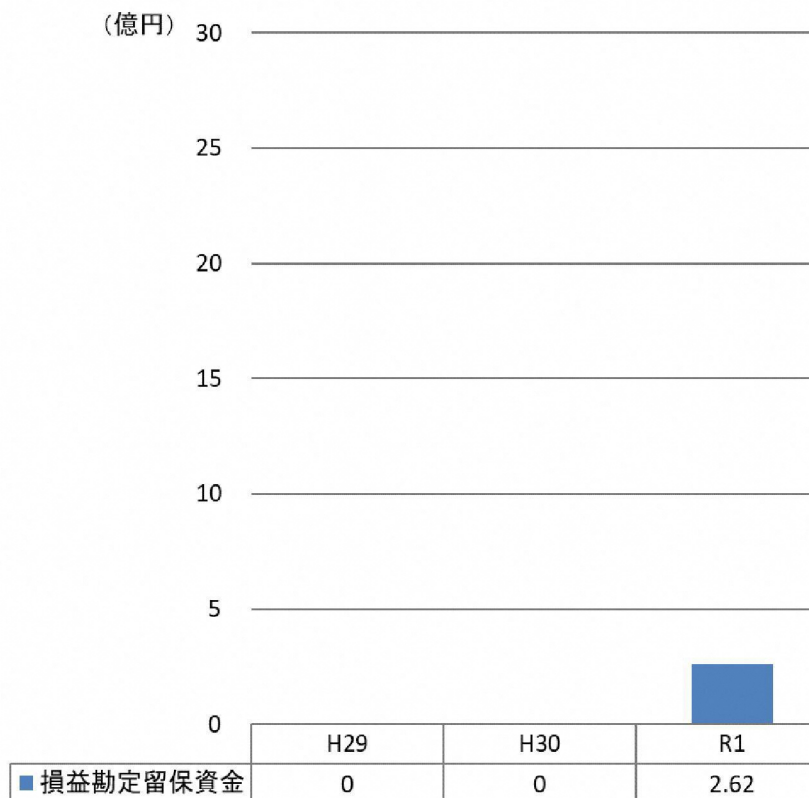
資金残高の推移（汚水+雨水）

- 計画では、資金残高を見込んでいない
- R1は、損益勘定留保資金として、2億6,200万円発生している

計画



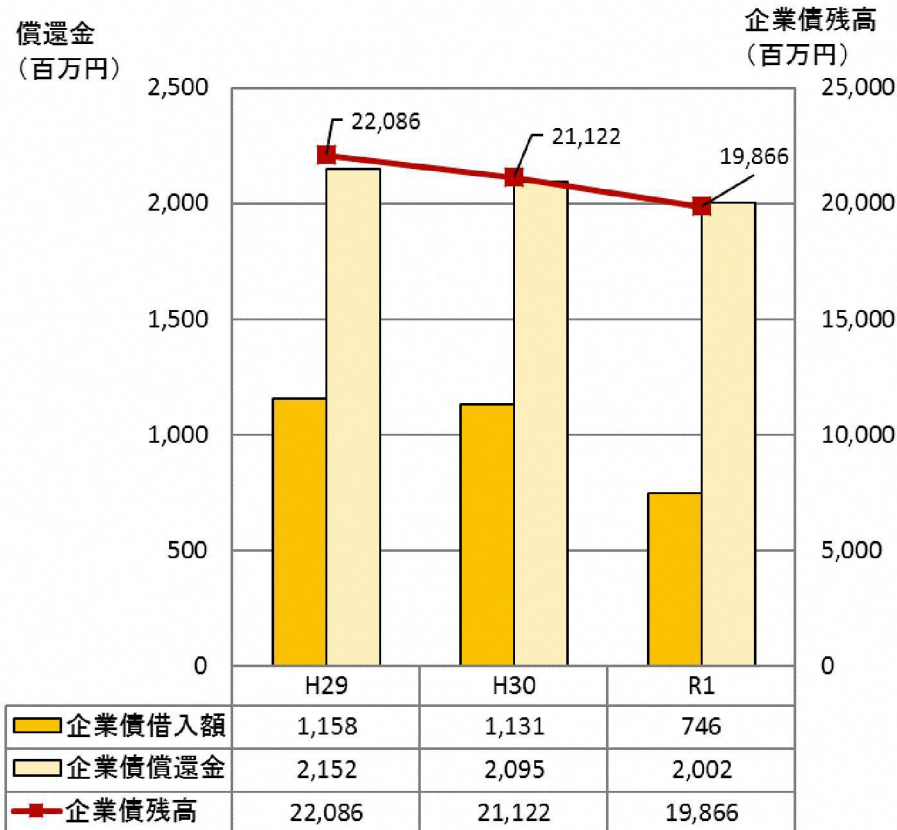
実績



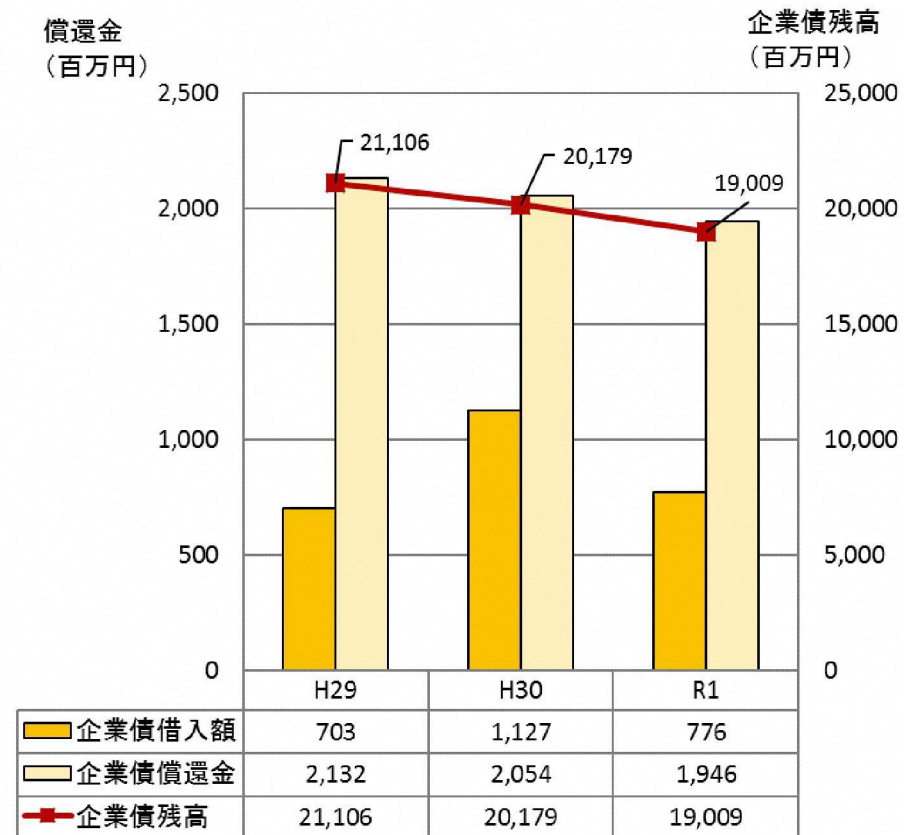
企業債償還金および企業債残高の推移（汚水+雨水）

企業債借入金については、計画の範囲内での借入に努めている。
 また、企業債償還金については、計画に基づき償還することができる。
 企業債残高は計画以上に減少している。

計画



実績



令和元年度決算状況のまとめ

【概要】

◆汚水事業

- ・施設の老朽化を迎える農業集落排水の公共下水道への接続を完了した。
- ・下水道施設の耐震化・長寿命化を進めるとともに、適切な維持管理に努めた。
- ・組織体制面では、熟練者から若年者へ内部研修、各種外部研修への参加により技術継承を図った。

◆雨水事業

- ・一級河川の改修にあわせ、雨水幹線整備を計画的に進めた。

【経営の特徴】

◆収益的収支の状況

純利益については、計画に対して1億9,900万円増加し、3億9,800万円となった。これは、収入については、下水道使用料が水洗化人口の増加と共に緩やかに増加しており、計画に比べ収益的収入額が上回ったこと、支出については、計画を超える執行であったが、収入増が支出増を上回ったため、計画を上回る純利益を計上した。

◆資本的収支の状況

資本的収支不足額については、計画に対して6,300万円不足額が減少し、11億2,900万円の不足となった。収入については、適切な財源確保に努めたことから、計画値を上回る収入を得られ、支出については、計画を超える執行であったが、収入増が支出増を上回ったため、不足額を減らすことができた。

経営状況のまとめ（平成29年度～令和元年度）

【経営状況】

- 水洗化人口が計画を上回り、下水道使用料は微増となった。
- 経常収支比率は、計画期間中を通して100%を上回っている。
- 有収率は全国平均を上回っており、効率的な汚水処理が出来ている。
- 効率的な事業運営により、計画期間中、純利益を計上することが出来ている。

【今後の課題】

- 経済情勢の低迷や節水機器等の普及により、下水道使用料の大幅な増加は期待できない。
- 下水道施設の更新に加え、耐震化をはじめとする災害に強いライフラインの確保に努めるとともに適切な維持管理を行い、より一層の経営の健全化に努める必要がある。
- 収益的収支の支出の内、流域下水道維持管理費負担金が24.8%を占めていることから、今後の滋賀県の維持管理費の算定に注視する必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響に注視する必要がある。